

秋サケ資源調査

川村 俊一

調査目的

青森県太平洋沿岸に來遊する秋サケ資源の來遊経路及び漁場特性を把握し、今後の秋サケ資源の適正な管理及び漁業調整施策の資料とする。

調査の内容と方法

東通村尻屋から階上町の太平洋沿岸漁協所属の漁船（10トン未満漁船で委託期間は10月～12月）に調査を委託し、はえなわ漁法（1操業当たり15鉢以内）によって図-1に示す調査海域内で分布状況・移動回遊等について調査を実施した。

調査結果

平成6年ののはえなわ調査委託船の調査概要を表-1に示した。実際の操業集数は委託集数97隻に対し46隻であった。延べ出漁回数は252回、総使用鉢数2,857鉢、総漁獲尾数17,051尾、推定水揚げ金額は12,159,270円であった。

1) 海域別操業回数

調査海域毎の操業回数を図-2に示した。

平成6年は、六ヶ所村から東通村かけての北部海域と三沢市から階上町くでの南部海域でそれぞれ漁場形成が見られ、北部海域では六ヶ所村泊から東通村白糠にかけての沖合（海域No.16）と鮫角正東の沖合（海域No.49）で多くの操業が行われ、操業回数はそれぞれ36回及び34回であった。

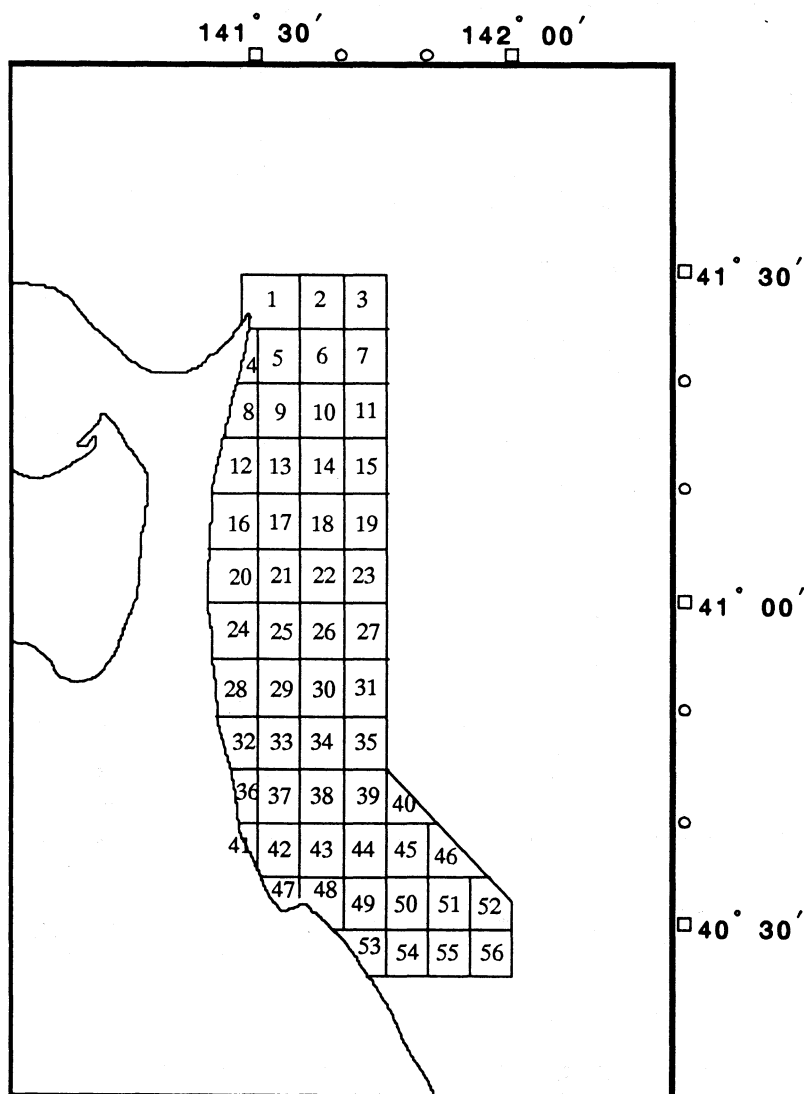
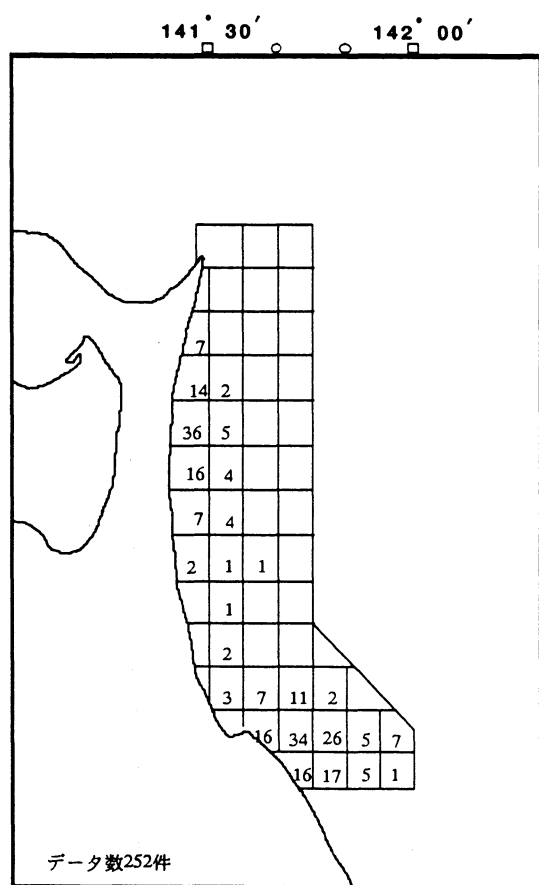


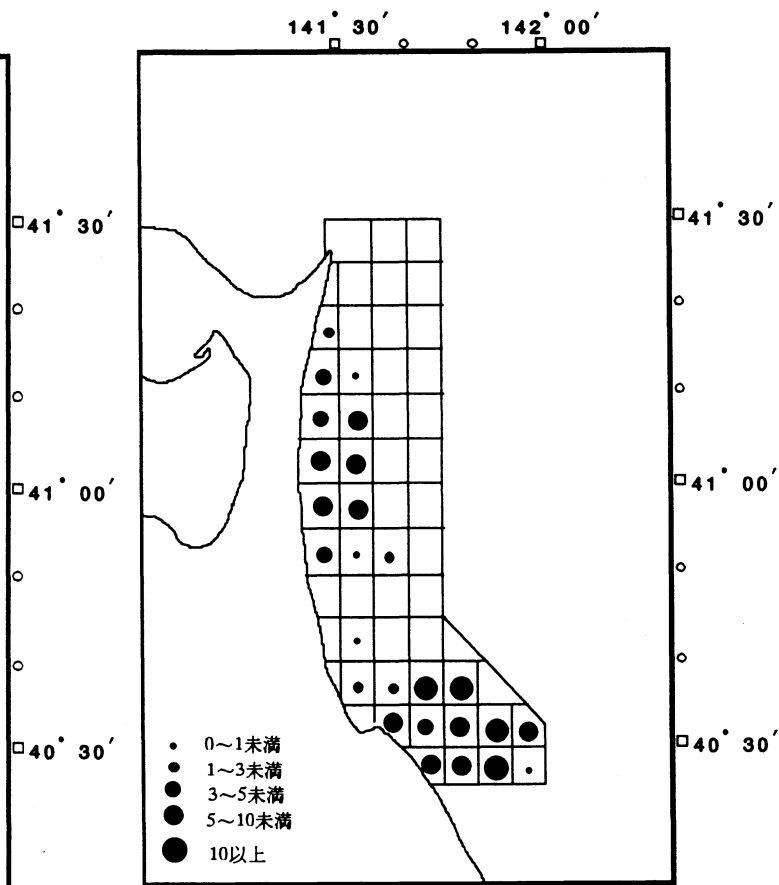
図-1 秋サケ延縄試験操業海域図

表－１ 平成６年度秋サケ延縄試験操業結果

漁協名	委託隻数	出漁隻数	出漁期間	延出漁数	使用鉢数	漁獲尾数	ギン	ブナ	放流尾数	水揚げ金
階上	20	3	11/26～12/28	23	252	1,185	464	721	22	481,034
八戸市	17	9	11/1～12/30	52	486	2,539	2,414	125	52	1,899,480
八戸鮫浦	18	14	11/17～12/31	87	991	6,688	6,633	55	77	5,171,261
百石町	3	0	－	0	0	0	0	0	0	0
三沢市	3	0	－	0	0	0	0	0	0	0
六ヶ所村	1	0	－	0	0	0	0	0	0	0
六ヶ所村海水	5	3	11/30～12/2	3	30	228	228	0	5	177,440
泊	8	5	11/1～12/28	38	691	4,291	3,796	495	27	3,036,562
白糠	22	12	11/3～12/29	49	407	2,120	1,701	419	42	1,393,493
合計	97	46		252	2,857	17,051	15,236	1,815	225	12,159,



図－２ 海域別操業回数（全期間）



図－３ 海域別CPUE（１鉢当たり漁獲尾数）

2) 分 布 密 度

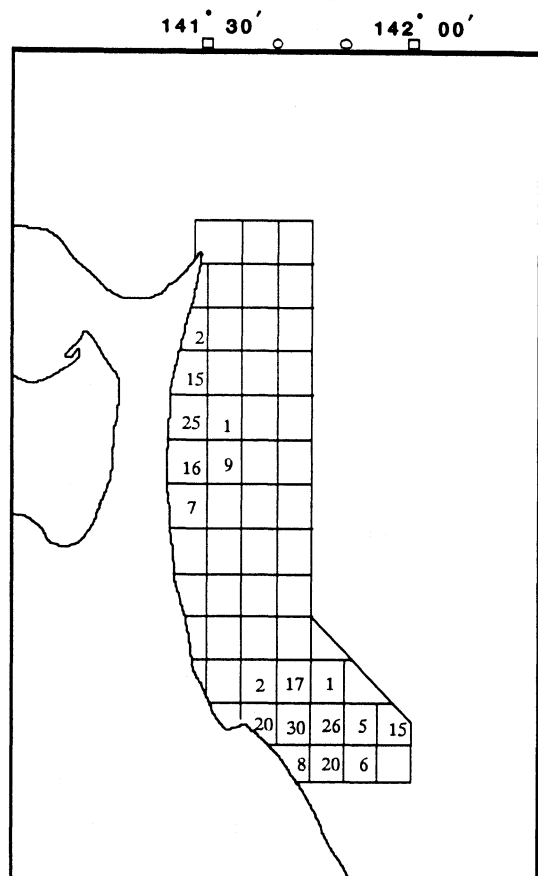
図－３に海域別CPUE（１鉢当たりの漁獲尾数）を示したCPUEの高かった海域は、北部の陸岸に近い海域と南部の沖合域にあり、特に南部海域では４海域（海域No.44・45・51・55）で10尾以上の密度の高い漁場が形成された。

3) 移 動 回 遊

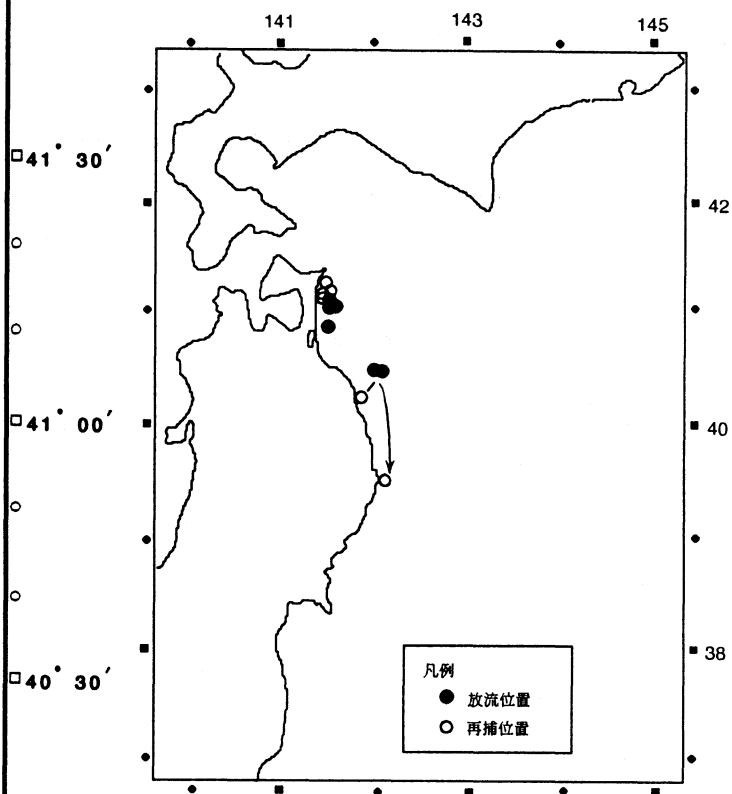
図－4 に海域毎の標識放流尾数を、図－5 と表－2 に再捕状況を示した。

放流尾数は全期間を通じて 225尾の放流があり、6 尾の再捕報告があった。

このうち北部海域で放流された 4 尾はいずれも放流海域よりも北上して再捕された。一方、南部海域で放流された 2 尾は岩手県に南下して再捕された。



図－4 海域別放流尾数



図－5 放流位置と再捕位置の関係

表－2 標識放流結果

標識番号	放 流 内 容		再 捕 の 結 果			
	年 月 日	場所	再捕年月日	再捕の場所	海区	方法
1461	94. 11. 30	24	94. 12. 19	青森県白糠沖	16	不明
187	94. 12. 2	50	94. 12. 8	岩手県山田湾		定置
1463	94. 12. 20	16	95. 1. 20	青森県白糠沖	16	定置
1465	94. 12. 23	16	95. 1. 20	青森県白糠沖	16	定置
964	94. 12. 23	51	95. 4. 17	岩手県久慈市		不明
1467	94. 12. 25	16	94. 12. 26	青森県尻労沖	4	刺網

考 察

平成6年に本県太平洋沖合ではえなわで漁獲された秋サケ資源は、標識放流の再捕状況から北部海域が青森県産資源主体、南部海域が岩手県産資源と青森県産資源の混成群と考えられたが、その量的関係の推定については、海況との関連で年変動が激しいことが予想されることから今後さらに資料を集める必要がある。

また、表－3に昭和61年から太平洋において実施してきた秋さけはえなわ試験操業の実施状況一覧表を示した。

開始当初7隻で始まった試験操業は、平成6年には委託隻数94隻、実操業隻数46隻と増加してきている。

しかしながら、全体の延出漁隻数、延使用鉢数は平成4年をピークに減少傾向となっている。これは、近年の秋サケの魚価安により、本漁業の経済性が低下してきていることに起因していると考えられ、今後再検討していく必要があると考えられる。。

表－3 年次別実施状況一覧表

年 次	昭和61	昭和62	昭和63	平成1	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	計
委 託 隻 数	7	18	38	56	64	64	101	86	94	528
出 漁 隻 数	7	13	30	37	40	26	39	41	46	279
延出漁隻数	81	99	411	420	172	129	477	336	252	2,377
延使用鉢数	1,573	1,404	5,558	5,053	2,881	1,291	5,078	3,555	2,857	29,250
漁 獲 尾 数	4,301	1,729	26,565	26,154	4,015	6,225	14,843	16,252	17,051	117,135
放 流 尾 数	52	15	225	343	138	169	235	190	225	1,622
再 捕 率	3.8	33.3	2.0	1.7	4.3	7.1	0.4	1.1	2.7	2.8
県内再捕	1	1	1	5	1	6	1	0	4	20
内河川	0	0	1	3	0	2	0	0	0	6
県外再捕	1	4	4	1	5	6	0	2	2	25
内河川	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1